

# 「PG」で人工授精したら どれくらい受胎するの？

PGF<sub>2α</sub>（以下PG）は、一九七〇年後半から現場で応用され、普及してすでに三〇年が経過しています。現在も日常の繁殖障害治療に非常に多く応用されています。皆さんの牛たちにも投与される事が多いと思います。今回、繁殖部会でPG投与によってその牛が授精されたのか、受胎したのかを調査したのでお知らせします。調査はNOSAIが授精所を持つ七診療地区で、平成一七と一八年度の乳牛診療カルテより、PGが投与された延べ一七九一〇件を対象としました。

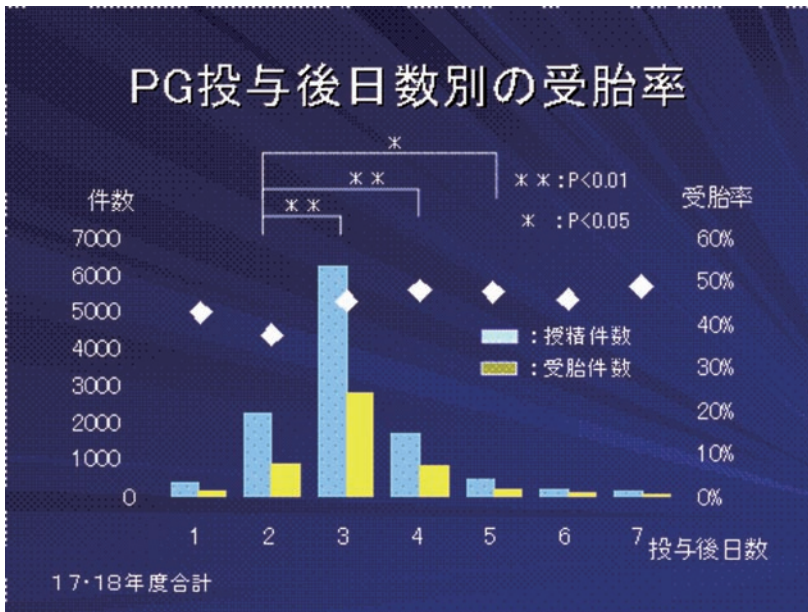
PG投与後七日以内に授精された授精率は約六三％であり、PG投与後三日目に集中して授精が行われていました。（図1）

PG投与後七日以内に授精された牛の受胎率は約四四％であり、妊娠率は約二八％でした。また、PG投与後二日目に授精された場合の受胎率は三・四・五日目に授精されたときよりも低い受胎率でした。PG投与量（三、四および五ml）別の調査では授精率、受胎率、妊娠率に差はみられません。また、それぞれの季節別成績に差はありませんでした。（図2、図3）

PG投与牛の繁殖状況を調査した結果、PG投与後七日以内に授精された牛の割合（授精率）は約六三％であり、PG投与後三日目に集中し、投与後七日以内に授精された牛の受胎率は約四四％で、妊娠率は約二八％でした。また、不受胎だった牛の約二五％が次の発情が正常にきました（発情回帰率）。（図4）



(図1)

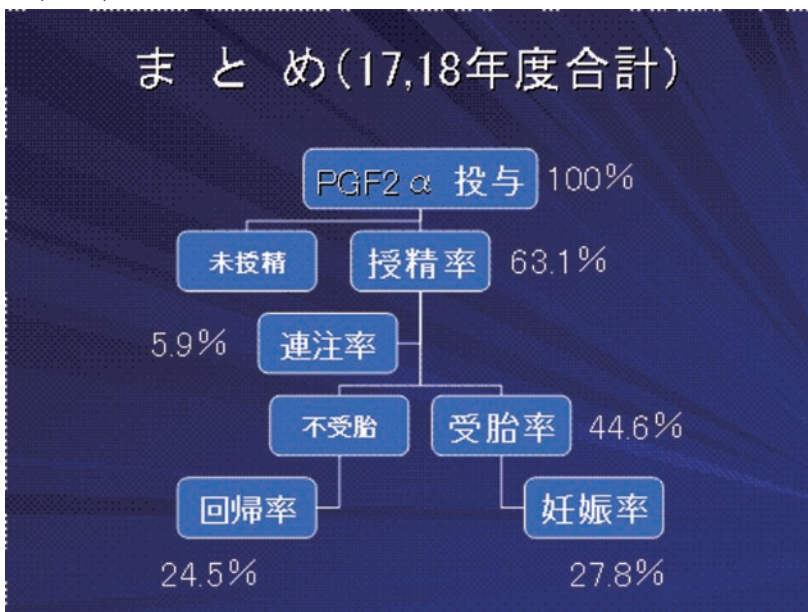


(図 2)

### PGF2 $\alpha$ 投与量別受胎・妊娠率

	3ml投与群	4ml投与群	5ml投与群
授精件数	7589	1359	2327
受胎件数	3317	599	1053
受胎率	43.71%	44.08%	45.25%
妊娠率	27.98%	28.21%	27.34%

(図 3)



(図 4)

今回の調査を要約すると、PGを一〇頭に投与↓六頭に授精して↓三頭が受胎した治療行為としてのPG投与成績として、ほぼ満足であると思われました。

今回、繁殖障害時のPG効果について説明しましたが、まずは繁殖障害にならない飼養管理が先決です。しかし、もし発情がこないよう

したら、早めに診療所に相談してください。

発情来なければ種付けできない、種付けしなければ妊娠しない、妊娠しなければお産しない、お産しなければ乳は搾れない、搾れないば儲からないのです。早く受胎させて分娩させる事が安定経営の最重要課題です。

(今回は第三六回家畜人工授精優良技術発表全国大会の発表を基にしました。)

(厚岸支所家畜診療課長 高橋 俊彦)